

## 平成29年度 第3回番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 平成 30 年 3 月 23 日(金) 14:00~15:30
2. 開催場所 : 株式会社東北新社 会議室 (東京都港区赤坂 4-8-10)
3. 委員の出席 : 委員総数 7 名 / 出席委員数 6 名  
出席委員の氏名 : 小池保委員長、渡辺祥子委員、横山宗嘉委員、渡辺純一委員、藤森益弘委員、  
二瓶紀六委員  
欠席委員の氏名 : 谷口恭子委員  
  
放送事業者側出席者氏名 :  
<株式会社東北新社メディアサービス>  
上高原亮 ゼネラルマネージャー  
  
<株式会社ザ・シネマ> (ザ・シネマ)  
三上義之代表取締役社長、額健太郎営業部長、吉森健陽副部長、福寿亮、藤原良
4. 審議対象チャンネル : ザ・シネマ
5. 議題 : 番組審議  
<審議対象番組>  
「ふきカエ ゴールデン・エイジ」
6. 審議内容
  - ・アイデアが良く、面白かった。『エクスペンダブルズ』の俳優陣と同じように、吹き替え版も、日本の声優界のベテランが揃っているということで、役者と声優が似ており、声優たちも悪いオジサンに見えるのが面白かった。ただ、あれが何にでも通用するかというわけではないだろう。今後も継続できるかどうかかわからないが、『ハリー・ポッター』や『ワイルド・スピード』で同じように吹き替えの人を集めても作れるかもしれない。司会も上手かった。
  - ・レジェンド級の声優さんに集まっていたが、普通は放送では声優さんの名前は出さないの、一般的には声優の名前は知られていないと思う。あの番組を見て、声と顔を初めて知ったと喜んでくれる人がいるのであれば、先行き見通し明るい。
  - ・ちょっと喋りと喋りの間が空いた瞬間に下に吹き出しが入るのは、効果的だった。そういった何かしらの細工は役に立つということを実感した。
  - ・吹き替えと字幕どちらが良いのか、改めて考える材料としてもこの番組は良かった。吹き替えは嫌いなのでほとんど見ないが、一回見比べてみようと思わせてくれる番組だった。
  - ・吹き替えについて知らないことや、誰に向けて作っているのかが判らなかつたため、見るのが苦痛だった。出演者も誰に向かって話しているのか意識していないため、単なる芸談で終わってしまっている。

- ・制作意図なしに、司会の人が言っていた通りにエピソードや裏話をただ出し合っただけで終わってしまった。期待を裏切られた。とりわけ最悪だったのが、あの声優たち自身が「実は僕は字幕派」「私も」「私も」という展開があったこと。あそこは、編集で落とすべき内容ではないのか。
- ・今回の番組はあくまで『エクスペンダブルズ』を知っている人に向けて作った番組で、それが共通のベース。そこに立って見ると、面白い人は面白い。立っていない人を見ると、単なる芸談で全く面白くないということになる。
- ・ザ・シネマとして何故こういう企画をしたかという、吹き替えをチャンネルの1つのフックにしていこう、という思いがあったからではないのか。そういう点では、後々に引き継いでいくような財産があまりない中身だった。

<事業者回答>

- ・ザ・シネマの視聴者なら、この番組に出演している声優さん達がレジェンド級だと分かっている人が多いはず。他チャンネルは、どちらかというと歌ったりコンサートをやったりという「アイドル声優」に目をつけているが、当社は、これまで70年代、80年代の吹き替え黄金時代のテープを発掘し、そのような吹き替え版映画を放送してきた。ザ・シネマにはそれを見たいという視聴者が集まっている。この番組は自信を持って放送したものであり、視聴者からは概ね高評価をいただいた。

以上